

第48回北海道高等学校弓道選抜大会北北海道大会
兼第45回全国高等学校弓道選抜大会北北海道地区予選会

大 会 要 項

- 1 主 催 北海道弓道連盟 北海道高等学校体育連盟
- 2 後 援 北海道 北海道教育委員会 公益財団法人北海道スポーツ協会
帯広市 帯広市教育委員会 公益財団法人帯広市スポーツ協会
- 3 主 管 北海道弓道連盟東部地区 北海道高等学校体育連盟弓道専門部
- 4 協 力 十勝地区弓道連盟 十勝支部各高等学校弓道部
- 5 期 日 令和8年10月5日（月）・6日（火）
- 6 会 場 帯広の森弓道場
〒080-0856 帯広市南町南7線56番地7（帯広の森運動公園内） 電話 0155-47-5999
- 7 競技日程 **【1日目】 10月5日（月）**

(1) 専門委員打合せ	(射 場)	8:10～ 8:30
(2) 集合・審判打合せ	(射 場)	8:30～ 9:00
(3) 監督主将会議	(射 場)	9:00～ 9:30
(4) 開会式	(射 場)	9:50～10:10
(5) 競技	(個人予選2立)	10:30～12:30……立射
	(団体予選1立)	13:00～14:00……立射
	(個人決勝)	14:00～15:00……坐射
(6) 個人表彰式	(射 場)	15:00～15:30

【2日目】 10月6日（火）

(1) 集合・審判打合せ	(射 場)	8:10～ 8:30
(2) 競技	(団体予選2立)	9:00～11:30……立射
	(抽選・的替)	11:30～12:00
	(団体リーグ戦)	12:00～14:00……坐射
(3) 閉会式	(射 場)	14:30～15:00
- 8 参 加 料 1チーム 15,000円 個人 3,000円
(同一選手が団体戦と個人戦の両方に登録している場合も、個人戦参加料を要する)
- 9 編 成
 - (1) 団体の部は、選手3名・補欠2名以内・介添生徒1名以内・監督1名とする。
(但し、本大会は選手2名以上をもって団体として認める。)
 - (2) 個人の部は、選手1名・介添生徒1名以内・監督1名とする。
※個人の部の出場選手が複数いても介添えは1名以内とする。
 - (3) 団体の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、4校以下の場合1校、5校～8校の場合は2校、9校～12校の場合は3校、13校～16校の場合は4校、17校～20校の場合は5校、21校以上の場合は6校とする。なお2人団体も参加校として数えることとする。開催地区は、他に男女各1校ずつ参加できるものとする。
 - (4) 個人の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、4校以下の場合4名、5校～8校の場合は6名、9校～12校の場合は8名、13校～16校の場合は10名、17校～20校の場合は12名、21校～24校の場合は14名、25校以上の場合は16名とする。

10 参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 全日本弓道連盟、並びに北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒であること。なお、大会参加時には全日本弓道連盟登録ID番号が必要である。
- (3) 令和8年度在籍学年が第1学年・第2学年であること。ただし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (4) 転校後6ヵ月未満の生徒は出場できない（外国人留学生もこれに準ずる）。ただし、一家転住の場合はこの限りではない。
- (5) 全日制・定時制・通信制の混成、及び男女の混成は認めない。
- (6) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (7) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。

11 引率責任者

- (1) 引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の二に示された者）も可とする。
- (2) 監督、引率教員、介添生徒、上記部活動指導員について、ID（身分証明書）を発行する。このIDの提示がなければ、本会場及び控室に立ち入ることはできないものとする。なお、選手はゼッケンの着用によってIDの代わりとする。

12 競技内容

- (1) 種 目 近的競技
- (2) 種 別 女子の部・男子の部
- (3) 種 類 団体・個人
- (4) 規 格 的は霞的(36cm)を使用する。団体・個人戦ともに3人立4射場 的の間隔180cm

13 競技規則（公財）全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案および北海道高体連弓道競技規則による。

14 競技方法

- (1) 団体競技は次の通り行う。
 - ア 予選は1人12射、合計36射を行ない、上位4チームを通過とする。
(同中の場合は1人1射ずつ、合計3射の競射を行う。)
 - イ 決勝は1人4射、合計12射のリーグ戦とし、組み合わせは抽選とする。
(同中の場合は予選に準じる。)
 - ウ 順位決定は次による。
 - ① 勝ち点の多いチーム。
 - ② 勝ち点の同じ場合は、リーグ戦での合計的中数による。
 - ③ ②により決しない場合は、当該チーム同士の対戦成績による。
 - ④ ③により決しない場合は、予選での合計的中数による。
 - ⑤ なおかつ④により決しない場合は、1人1射の競射による。
- (2) 個人競技は次の通り行う。
 - ア 予選は、1人8射を行い、男女とも5中以上を予選通過とする。
 - イ 5中以上の者が出なかった場合は入賞者なしとするが、全国大会出場者を決める場合は、的中最上位者とする。また、同中者が出た場合は、射詰競射により決定する。
 - ウ 決勝は1射ずつの射詰競射により順位を決定する。的中を失った同位者の場合は、優勝および全国出場者を決する以外は遠近競射により順位を決定する。競射においては、原則として9射目以降は24cm星的を使用する。遠近競射による順位決定は射詰競射決定後に行う。
- (3) 競技順序は次の通り行なう。（男子から実施する。）
 - 1日目 ①個人予選1立目 ②個人予選2立目 ③団体予選1立目 ④個人決勝
 - 2日目 ①団体予選2立目 ②団体予選3立目 ③団体決勝リーグ戦

- (4) 矢返しは、4ツ矢が終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは行わない。替矢は各選手2本用意すること。団体リーグ戦で同中競射になった場合の1本目、個人決勝の5本目、筈の損傷で矢番えができないとき等に使用する。
- (5) 矢番え完了後の筈こぼれは無効とする。
- (6) 怪我等で坐射ができない場合、参加申し込み時に所定の申請書を添えること。
- (7) 競技時間の制限（団体競技のみ実施する。）
 - ア 本座において、進行係の合図によって始まり、最後の射手の離れて終わる。
 - イ 競技は個人戦の予選および団体戦の予選は立射とする。また、個人戦の決勝および団体戦のリーグ戦は坐射とする。1団体12射の行射制限時間を立射は6分以内、坐射7分以内とし、立射は5分30秒、坐射6分30秒で予鈴の合図をする。
 - ウ 弦切れ、その他の事故が生じて時間延長はしない。ただし、審判の指示により競技が停止した時間は制限時間から除外する。追い越し発射は認めない。
 - エ 個人競技および順位決定戦等の時間制限のない場合は、「弦音打起し」の競技の間合いを原則とする。
 - オ その他については進行係及び審判の指示に従うこと。
- (8) 監督は替矢・替弦を持って控えに入る。
- (9) 招集
 - ア 第3控において、選手・監督の確認、ゼッケンおよび服装、弓具の点検をする。
 - イ 第3控から第2控へ移動する際にいない選手は「その立」に限り失権とする。そのために団体に欠員が生じて欠員のまま団体とする。
 - ウ 監督については11で定めた者とする。大会役員の関係上やむを得ない場合は生徒に代行させることも可とする。

15 選手の交代

- (1) 立ち順は、参加申込書に記載された1番から3番までを1団体とし、選手の交代は登録者の中から3回まで認める。監督主将会議の際から受け付ける。（交代した選手の再出場は認める）ただし、決勝リーグ戦進出校決定のための同中競射において交代は認めない。
- (2) 選手の交代の届け出は所定の用紙に記入し、第3控に入る（次の競技の30分前）までに監督より交代受付へ届け出ること。
- (3) 1回で2人を交代してもそれを1回と数える。また、交代後、再び選手として出場する時は、前の立ち順にこだわらない。
- (4) 3回の交代をした後、選手に事故が生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。
- (5) 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。
- (6) 個人競技の選手の変更は認めない。

16 競技上の諸注意

- (1) 弓具
 - ア 選手は全国高等学校体育連盟弓道競技規則第13条に定められた弓具を使用すること。
 - イ 押手蹠（指押手を含む）以外の補助具は原則として認めない。
 - ウ 蹠の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。
 - エ 弓具に照準・目印をつけてはならない。
 - オ 伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他のものをつけてはならない。
 - * 伝統的な押手補助具としては、押手蹠（拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指）がある。
 - * キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。
 - * サポーターの使用は手首以外の使用について認める。色は、白・黒・紺・ベージュの単色無地とする。
 - * 傷病や障害等のため、包帯やテーピングで手首を固定する必要がある場合は、監督が事前に大会本部へ申し出て使用させること。
- (2) 服装
 - ① 選手
 - ア 弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一すること。
 - イ 弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の単色無地とし、それ以外の色を使用する場合は各校で統一すること。襟付き・ハイネックは、不可とする。

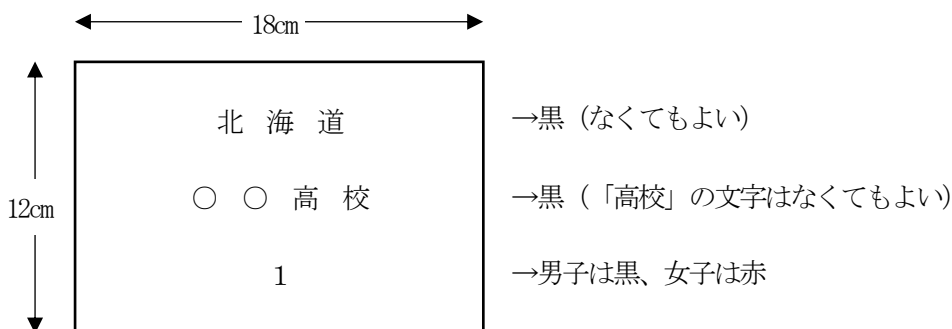
- ウ 弓道衣に校名・校章および都道府県のシンボルマークやワッペン等を付ける場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横 10 cm 以内にする。袴への刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後にする。
- エ 鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名・番号に限り入れてもよいが場所は鉢巻の端とする。また、鉢巻の色は各学校で統一すること。
- オ 胸当ては無地とし、校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、道着の下に装着することまでは咎めない。
- カ リボン・ピアス等の装身具類は着用しない。
- キ 弓道衣・袴・足袋・アンダーシャツ・鉢巻等の色についてチーム内で統一を要する場合は、専門部登録が男女別であることから、同一校であっても男子チームおよび女子チームで異なる色とするのを認める。ただし、個人競技においても、男子個人・女子個人の別など競技種別ごとに、同一校内における色の統一を図るものとする。

② 監督

- ア 射場内での服装は上着（ジャケット）の着用を原則とする。ただし、気候に応じて半袖ポロシャツ等でも可とする。
- イ 射場内での素足は厳禁とする。

(3) ゼッケン 選手は次によりゼッケンを着用する。

- ア 団体戦は、プログラムに登録された番号を表示したゼッケン（個人戦は学校名だけでよい）を右腰前に付ける。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。
- イ 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。
- ウ ゼッケンの記載は横 18 cm、縦 12 cm の白の布または紙を使用する。（布または紙をケースに入れることは可）
「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。



- (4) 施設内での壁・柱などを使用した弓張りは禁止とする。
- (5) フラッシュ撮影は禁止する。
- (6) 応援は、的中時の「よし」の掛け声と皆中時の拍手のみとする。なお「横皆中」については禁止とする。
- (7) 常に静粛な環境を維持するように相互に協力してください。
*その他、必要事項は、「必携 2026 年発行」（全国高等学校体育連盟弓道専門部）を参照のこと。また、「必携」は大会時に持参すること。

18 表彰等

(1) 表彰

- ア 団体の部は、男女とも 4 位までとする。
- イ 個人の部は、男女とも 5 位までとする。

(2) 全国大会出場権

- ア 団体の部は、男女優勝校が全国選抜大会への出場権を獲得する。
- イ 個人の部は、男女とも 2 位までの者が全国選抜大会への出場権を獲得する。

(3) 東日本大会出場権

男女団体優勝校は東日本高校弓道大会への出場権を獲得する。また今年度は東北ブロック開催のため、南北大会の 2 位校のリーグ戦における総的中数で上位の学校が第 3 代表権を獲得する。女子団体は前年度東日本高校弓道大会成績により、南北大会の 2 位校のリーグ戦における総的中数で下位の学校が第 4 代表権を獲得する。

19 申込方法 プログラム作成の都合上、必ず以下のようにしてください。(締切厳守をお願いします)

(1) 帯広柏葉高校のホームページより申込書等をダウンロードし、次のとおりに送付する。

ア 参加選手および参加料の明細を所定の申込用紙に記入して、メールで送信する。

9月18日(金) 厳守

イ 職印を押した申込書(立射の選手がいる場合は申請書)のPDFまたは画像データを、メールで送信する。
職印を押した申込書は当日ご持参ください。ただし、メールの内容と記載内容が同じものであること。

(メールデータを優先します)。

9月24日(木) 厳守

ウ 参加料を次の口座に振り込む。

参加料振込先 帯広信用金庫 東支店 (店番号014)

普通預金 口座番号 1338290

口座名 北海道弓道選抜大会事務局 俵 英生

9月24日(木) 厳守

(2) 坐射ができない場合は

ア 坐射ができない場合は、参加申込書の備考欄にその旨を記入するとともに、「立射申請書」(エクセルファイル)を参加申込書と一緒にメールで送信すること。申込み後に怪我などをした場合も速やかに申請すること。

イ 必ず事前に書類を提出すること。監督主将会議当日の口頭による申し込みは受け付けない。ただし、申込締切後に怪我等が発生した場合については監督会議前に書面で連絡すること。

※個人情報の取り扱いに関して

大会参加に関して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。(詳しくは実施要領の「個人情報保護および肖像権に関わる取り扱いについて」を参照してください。)

20 申込先 メールアドレス g-kami@hokkaido-c.ed.jp

申込書は帯広柏葉高校のホームページよりダウンロードしてください。

帯広柏葉高校HP URL <https://www.obihirohakuyou.hokkaido-c.ed.jp/>

21 公式練習	日時・場所 帯広の森弓道場	10月4日(日)	13時00分～17時00分
		10月5日(月)	個人表彰終了～17時30分
	音更サンドーム弓道場	10月4日(日)	12時30分～18時00分
		(音更サンドーム弓道場は18時以降の団体利用はお控えください)	

*選手は試合用の服装(必ずゼッケンを装着)で練習をすること。お互いに節度を守ること。

*練習の際は、必ず監督などの責任のある方が射場内につき、危険防止に留意すること。

(音更サンドーム弓道場は役員を配置しませんので、監督の先生の責任下で練習願います。)

22 宿泊弁当 宿泊の斡旋は行いません。弁当注文を希望する学校につきましては、別紙「弁当注文票」を記入し、各校でお申し込みください。

23 その他

- (1) 競技は、個人戦ならびに団体予選は3人立ち4射場で行います。団体決勝リーグ戦は3人立2射場で行います。
- (2) 前年度優勝校 北見緑陵高校(男子)、滝川高校(女子)は優勝杯をご持参ください。
- (3) 立ち順抽選は弓道連盟立ち会いのもと、当番地区で行います。
- (4) 各支部の専門委員は、支部大会のプログラム(全ての成績を記録したもの)、および大会結果を9月18日(金)必着で、大会事務局と道高体連弓道専門部(札幌東陵高校山田先生)宛てに各1部ずつデータで送付してください。各支部の専門委員は、支部大会公式記録、及び大会結果を9月24日(木)17:00までに、道高体連弓道専門部共有フォルダの所定のフォルダに保存してください。
- (5) プログラム作成の都合がありますので、参加申込・成績の送付は期日を厳守してください。
- (6) 入場行進は特に行いません。開会式予定時刻までに弓道場矢道に集合してください。
- (7) 大会結果速報は大会期間中にWeb上にて公開します。QRコードは各校へ配布及び、会場内に掲示します。

競技上の諸注意（補足）

- 1 射場に入場後、弓具（弓、矢および弦等）に不都合が生じた場合は交換することができる。ただし替弓具が準備してある場合に限る。
 - 2 次の矢は無効とし、「はずれ」として処置する。
 - (1) 矢番え完了（弦に筈をかませた後、右手が腰に復した時点）後に、弦から筈が外れた場合。
 - (2) 打起し開始後引き直した矢。
 - (3) 同一射場において前の射手より先に発射した場合。ただし、前の射手が持ち矢を棄権した場合を除く。
 - (4) 団体競技で制限時間内に発射できなかった場合。なお同時発射も無効とする。
 - (5) 故意に他チームの行射を妨害したと審判委員が判定した場合。（妨害を受けた選手の引き直しまたは射直しは認める。）
 - (6) 審判委員の注意を無視して行射した場合。
 - 3 弦切れの場合、4本目を除き、選手は射位に跪坐し、射場進行係が弓を取りに来るのを待つ。弓を渡した後、切れ弦の処理をする。4本目の場合はならいのごとく処理し退場する。替弦は原則として監督が張るものとする。
 - 4 弓を取り落とした場合、射場進行係の指示に従い処理をする。
 - 5 射位にある射手は口頭、またはその他の方法で助言を求め、または受け取ってはならない。射手が本座または射位で不必要な声を発したり、他の射手に対して助言したりしてはならない。
 - 6 会場内で不必要な声を発しないこと。観覧者は指定された観覧席から応援し、的中時の「よし」の発声と皆中時の拍手のみとする。
 - 7 矢を落し失権となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾って自分の右側に置く。
 - 8 的中数は看的の○×？表示で示す。的中数に異議がある場合は、矢を抜く前に監督が射場進行係に挙手により申し出る。その後の申し出については受け付けない。
 - 9 競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内における進行係の指示によって行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去、係が指示する。
 - 10 個人競技、退場口の進行係の指示があった場合は、第3控席に待機する。
 - 11 個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係の指示に従うこと。
 - 12 競技場内に第1控を設け、これより先を射場内とする。指定された第3控で点呼、弓具の点検を行うので競技進行に合わせて集合する。監督も含め第2控に移動するまでに集合しない場合は失格とする。
 - 13 第3控では弓を弓立に置き待機し、第2控では弓を立てて待機する。
 - 14 監督は、監督章をつけて替矢・替弦を持参して入場する。
 - 15 計時について、立射5分30秒（坐射6分30秒）の振鈴で予告し、立射6分（坐射7分00秒）の振鈴によってその後の矢を失権とする。振鈴は本部席のストップウォッチを基に行う。
 - 16 矢返しは、矢道玄関前に設置した矢立てで行うので、速やかに回収すること。
 - 17 競技本部は放送席とし、選手交代については本部席横の**交代受付**に提出する。
- ※ 矢摺り籐の長さが6cm未満のもの、あるいは損傷し、セロテープなどで補修している等の弓は使用しないでください。（弓具点検の際に、競技上危険または目印とみなしうる場合は、ガムテープを貼る場合があります。）

当番地区からの連絡

- 1) 会場が狭いので選手・監督・大会役員以外は道場内に立ち入ることはできません。
- 2) 選手の控え会場は、明治北海道十勝オーバル隣の**旧スケート場管理棟**（別紙会場図を参照ください）もしくは大会会場左側となります。時間帯によっては大変混雑することが予想されます。お互いに譲り合って使用してください。また、荷物については置いていくことができませんのでお持ち帰りください。
- 3) 控え会場では、配布するビニール袋に外靴を入れて持参してください。袋は回収しませんので大会期間中ご利用ください。また、使用後は各自で持ち帰るようお願いいたします。出来るだけ、各チームで用意くださると幸いです。
- 4) 道場内での壁面を使って弓を張ることを禁止します。選手同士で肩を貸しあうなどして弓を張ってください。その他の施設・備品の破損にも注意してください。
- 5) 観客席ではマナーを守って、騒がしくならないようお願いします。立入禁止区域には絶対に立ち入らないでください。
- 6) 晴天時、巻藁は安土裏に5台設置します。譲り合って怪我をしないように注意して使用してください。各校持ち込みの巻藁は、同じく安土裏に設置してください。
- 7) ゴミについては各自で持ち帰ってください。なお、業者斡旋の弁当は渡された場所が回収場所となります。
- 8) 部旗を貼る場所が会場にはありませんのでご了承ください。
- 9) 団体戦予選までは3人立4射場で行います。団体戦決勝リーグ戦は的替え後3人立2射場で行います。
- 10) 敷地内禁煙にご協力ください。
- 11) フラッシュ撮影は高体連では認めていません。
- 12) 今大会は合わせ的を使用します。また、的紙は裏に繊維の入ったビニールの紙を使用します。
- 13) 携帯電話の着信音は競技の妨げになります。マナーモードにするか、電源をお切りください。
- 14) 会場の準備が整うまで選手・監督は入場ができません。
- 15) 駐車場は、**明治北海道十勝オーバル駐車場**をご利用ください。（帯広の森弓道場駐車場は駐車許可書を配布した役員専用となります。）別紙会場図を参照ください。なお、駐車場係を配置しませんので事故のないように互いに譲り合ってください。